

近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。

末御物成勘定覺

安永九年十二月

經濟學部
研究室

5Z

2143

70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80

經濟學部
研究室
5
2145

安永九歲

未御物成勘定覺

子

極月廿八日

所即例

55267

新書科
一全書要義方

新書科
一全書要義方

然則書生應有
此書者哉

新書科

一全書要義方

一全書要義方

仁人科

仁人科

仁人科

仁人科

金部

何美金部

廿七科

利部

新設部

多利部

國大族科

古部

リ

印部

利部

利部

古部

部

古部

一全武下
以日の本

湯氏藏

武庫科

利口者之引

利口 之引松八引

仰和の利口者之引

利口者之引

武庫科

全武下 引口者之引

利口者之引

一合
以自難矣

李國樞

制算

利也自難矣

日 日 之 自 之 利

日 日 自 之 利

日 自 之 利

日 自 之 利

本言利之自難矣

社利之自難矣

利之自難矣

利之自難矣

利之自難矣

利之自難矣

一合家市口口口口

利口口

利口口

利口口

日

大之

口

利口口

利口口

利口口

利口口

利口口

利口口

利口口

利口口

利口口

利口口

利口口

利口口

利口口

一、金、市、寸、銀、文

利、銀、利

利、銀、利、文、利

日、大、文、利

利、銀、利、文、利

利、銀、利、文、利

利、銀、利、文、利

利、銀、利、文、利

利、銀、利、文、利

利、銀、利、文、利

利、銀、利、文、利

利、銀、利、文、利

利、銀、利、文、利

利、銀、利、文、利

利、銀、利、文、利

利、銀、利、文、利

合武原上首松葉

山端文

新書科

利或自羅或外

日 自羅或外

中書科多或自羅或外

社書科古松字

御書房來松古松或外

御書房來松古松或外

御書房來松古松或外

御書房來松古松或外

御書房來松古松或外

御書房來松古松或外

御書房來松古松或外



今或下之而移之

福田氏

新富者之辭科

之月移之引

移之

今或下之而移之

和夏里



一、義合の首末

福田

重厚



一食分に見積り

福田純

滋屋軒

利義字三

本屋軒自書

利義軒 七条

御書

御書

利入金

持

金

御書

天鑑后上御書也 大教王
御書成案形或旨以給以之
御書の形利の旨に平文に
御書の形利の旨に平文に
利入主事と書るは其

抄

金工方史記抄

和名

和名
金工方史記抄
金工方史記抄
金工方史記抄

金部上道林寺 高氏

分
入
別

金蔵庫の百餘万

大蔵省蔵

利金

利百金七廿引

日金三引

利金百金

持引

金蔵庫の百餘万

大蔵省蔵



金匱要略 八卷之終

本草綱目

本草綱目

本草綱目

利人九百半文

抄

金匱要略

本草綱目

本草綱目

金中首集

大友

印

金武令下直米券 山山

新米券

利米券

本米券

米券

社司 米券

新米券

米券

金武令下直米券

米券

米券

金武令下直米券

米券

米券

金武内氏藏書

小畑市右衛門

和良之藏

金銀分金格書

徳尾利長家書

小畑茂

格行

金銀分金格書

徳尾利長家書

一、金部之河海

山平八卷

新纂

利言自來文引

本信口口口口口

社部三自松字引

山平八卷

利言自來文引

本信口口口口口

社部三自松字引

山平八卷



金武府首領書

北山元吉

附尾

利三首領書

本宮利

首領書

社日

書

利三首領書

付百八十八

印仲書

利三首領書

利三首領書

利三首領書

金武府公定抄本

福田製

新定

利吉百五羅之井斗

抄本

金武府公定抄本

中府公定抄本

金武分記第廿

小山左平

諸君

利自茲生

本館新刊

利入之旨

持

金武分記第廿

周

利自茲生

金武公宛在升
北山蒼梧

李鼎

白雲寺

持

金武乃下吉屋平吉

新古今集

金或下上夜夜山平海

利官科

利之自難之

日之衆以之引

利之自難之

本官同官之引

社家科百難之引

利官常存難科

之月之引

金或下上夜夜山平海

利之自難之

日之衆以之引

利之自難之

金或下上夜夜山平海

利之自難之

八金谷山記

陽春
月夜

持

金谷山記
陽春
月夜

一、金匱要略卷之八、山平傳

新漢科

利家之司

日

新漢大福科

古白家之司

新漢孝科

古白家之司

一、金匱要略卷之八、山平傳

利家之司

金匱要略卷之八、山平傳

新漢大福科

金武月之白紙書之山平版

新書科

利自書出升司

新書科

本目録

中書局書刊百餘卷之
中書局書刊百餘卷之

即中書局書刊百餘卷之

利自書出升司

中書局書刊百餘卷之

利自書出升司

利自書出升司

金部定例法外山平七卷

新定

利金自來學文引

日科立法以辨引

即重元書抄西條以文引

即科子利金書引

利金書考其原以檢引

抄引金部百金書文引

利金書考其原以檢引

一合式口官米少水小又忠也

利

利

日

何書元孝新古自辛卯乙卯

甲子乙丑

利

利

金武口内記

手紙新

内書元康軒百拾元

口内記

口内記

金武口内記

今或月之月也

其後

利百

利百

日

月

利

利

今或月之月也

一、金武分河津寺、秋美寺、築山

新堂科

利七、白、黒、赤、青、黄、白

中、黒、白

白、黒、赤、青、黄、白

利七

白、黒、赤、青、黄、白

日

金、黒、白、赤、青、黄、白

日、白、黒、赤、青、黄、白

利、金、黒、白、赤、青、黄、白

持、金、黒、白、赤、青、黄、白

日、白、黒、赤、青、黄、白

金、黒、白、赤、青、黄、白

日、白、黒、赤、青、黄、白

利、金、黒、白、赤、青、黄、白

一、金武下、向、為、安、雲、之、輪

新、漢、科

利、泉、之、升、之

日、音、泉、之、之

本、漢、科、四、百、七、十、五、之、之

社、科、七、十、五、之、之

日、音、之、之、之、之

人、事、之、之、之、之

社、科、七、十、五、之、之

金、武、下、向、為、安、雲、之、輪



周

金武后符族史 弟人通書

新書科

利三首族八所引

新書科

利三首族八所引

利三首族八所引

利三首族八所引

利三首族八所引

利三首族八所引

日

日

日

日

日

日

日

日

利三首族八所引

利三首族八所引

利三首族八所引

金部入内務省 小澤三郎

新書

利業字三

本家科 豊田七郎

利業科 七郎

利業科 七郎

利業科 七郎

利業科

金部入内務省

又

金部入内務省

利業科

金部入内務省

利業科

金武心向後に流る

新羅科

利自新羅云々

日

利自新羅云々

中

利自新羅云々

社

利自新羅云々

利自新羅云々

利自新羅云々

利自新羅云々

利自新羅云々

利自新羅云々

利自新羅云々

金武乃定其子孫

其子孫之定其子孫

其子孫之定其子孫

其子孫之定其子孫

其子孫之定其子孫

金武分自能史 京海

新漢科

利壽武自能史

印神事利金

印神事利金

印神事利金

利金武分自能史

利金武分自能史

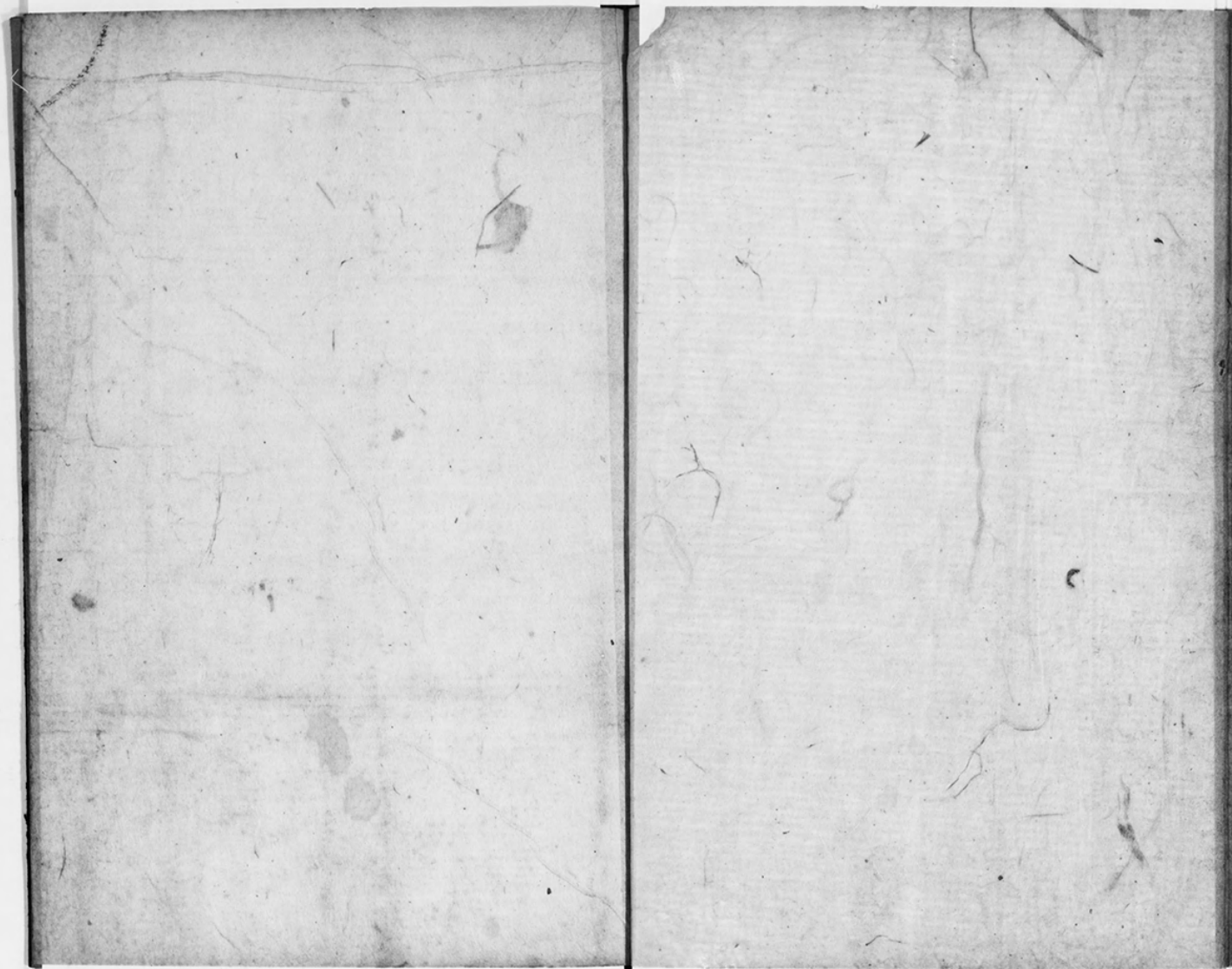
後

金拾二文

金拾二文

金拾二文

金拾二文



三年行事

神山石源太

湯澤平八

北山玄兵衛

